

たぐし

十二月



NO.141

昭和八年もいよいよ私達の前から去って行かうと一層居ます。
昭和八年と言ふ年は皆さしの知つての通り多事多難な年が来た。
真に日本にとっては今迄にない大切な時であつたと言ふ事が出来ます。
今此の年を送るにあつて本年中にとの様な重大なことからあつ
たかあらためて思ひ去りて見ませう。

この八年も過か去つて新しい昭和九年を迎へようとして居ます。
来年は恐らく本年以上の重大な年である事は分ります。
私達はこの年をよく辨へて一心に學問にはげみやよき國民になつて
君を爲國の爲につくす考を持たなければなりません。

尋二

お正月

横山セツ

お正月はもうぢきです。私はお正月を、たのしみにおおます。
私はお正月に、はねをついて、あそぼうと決心します。

ニ子エウ

宮川静悠

ぼくは日えうの時、へいたいごつこをしました。ぼくと孝行さんと、
たくきさんが大將になりました。ひろやちやんが、そうちやうに
なり、ひろやんは、ほんとうは、ごちやうだったのです。
せきじやうじが四人おました。みんなで八人でした。その中に一人
すくなくなつたので七人になりました。一人すくなくなつたので孝行
さんがつまらないから、はばいやをとりにゆかうといつたので
はばいやとりについて五つとりました。一番小さいのをセツに
わけてたべました。

きのふ

淡沼 庫雄

きふは、お父さんと かのふで、とんぬちを見に行きました。
お父さんは、きかんしです。もう とんぬちも、けこうほれました。
あなを ほつて、くぬやくをつめて、 はつばをかけました。
そして、おひるに かへりました。

ほすと

江平 静男

ほすとは、おとなしい。私が、ぶつても、おとなしい。私が、おこつても、おとなしい。いつも、ここにきて、人が、てがみを、入れると、おなかに、はいつし、まう、ほすと、は、いつも、たつてゐる。朝でも、夜でも、立つてゐる。ほすと、は、人が、くるまで、口を、あいてゐる。どうして、ほすと、は、はらが、すいてゐる。人が、入れた、てがみを、ゆるぐ、人、きよく、の人が、だして、もつて、い、から、です。

三

お正月を待つ。

鶴澤 寛

次はお正月が早く来水はいです。

正月には、忠りやんと、たこをはつて上げつもりです。今年のお正月は、しませんした。だから、来年のお正月は、うんと、ぶつもりです。夜は、友達、かかる、たを、りに、来ると、言ひます。から、来年、の、正月、は、に、や、か、です。

年玉には、お父さんが、日記帳を、買つ下さると、言ひました。くみが、「早く、正月が、来水、はい、い、といふと、お母さん、もう、八丈、島、位、来て、おる、だらう、と、い、ま、す。早く、こ、い、く、お、正、月、は、と、十九日、僕、は、十二、に、な、り、ま、す。

早く、こ、い、こ、い、お、正、月、た、の、し、く、た、の、し、く、待、つ、て、お、る

僕の所へ早くこい
早くこいこいお正月
僕は来年十二だよ
お年玉は日記帳
早くこいこい お正月。

浅沼 和夫

お正月早くこい、僕は、お、か、あ、さん、に、お、正月、は、い、く、つ、ね、た、り、く、る、と、か、と、思、つ、て、毎日、き、い、て、お、ま、す。
お正月が、く、れ、は、僕、は、た、こ、あ、げ、し、て、あ、そ、び、ま、す。女、や、お、と、な、は、は、ね、を、つ、き、ま、す。夜、は、と、も、た、ち、を、よ、ん、で、か、る、た、や、す、ご、ろ、く、を、し、て、ま、け、た、り、す、み、ま、つ、け、ま、す。
かつ、た、ら、み、か、ん、を、一、つ、や、る、つ、も、り、で、す。それ、か、ら、ま、だ、い、ろ、く、の、お、も、し、ろ、い、こ、とも、あ、り、ま、す。僕、は、早、く、お、正、月、が、く、る、と、う、れ、い、い、で、す。お、正、月、が、く、水、は、僕、は、も、う、十、に、な、り、ま、す。

お話をしてどなたにもお父さんお母さん悲しんで
いらつしやるかと思つてお父さんの毒でなまりません
たお父さんの御病氣もはやくなほりますやうにと見
つておます。

私は松の木です 菊池のつ

私は一人居つちでまつくうやみ々林に居ます。
友達を居ませせこので私は泣いておますと云ふと
石が来ました。そして「私は石です」と云ふました。
私は泣きながら「私は松の木だと言ひましたら
石は」どうしてそこに一人で居るのですかと言ひ
ました。私は「友達のとこへ行きたいが居るけ
ない。友達も来るのを待つて居るのです」と言ひま
した。

夕方 菊池登代

私は學校から歸つてすぐお父さんが出て田宮
坊太郎の本を讀んで送んで居た。
やうして居るお父さんに時計が四時をうつた。おいど
ころではもう風をわかしたりなどして居た。私
はお父さんに「お父さんお父さんお父さん」と言ひ
ながらお父さんの背から歸つて来た。そして「お父さん
しる」と言ひましたのでお父さんが「少ししたつと
「もうお父さん御飯食べよう」といふ言葉を言ひました。

尋玉の綴方

① 試験 菊池秀行

昨日は國史の試験でした。私は四年生
の教室のうらで國史をならひました
がどうしても頭にはいりませんので
いそいでならつて居る内にかわがチ
ヤンチヤンしたつてしまひました。私は
しやくにさはつたので「こんなもの」と
六つて本を地面にたきつけてやつた。
それから本を拾つてみんなどと共にな
らんで教室にはいつた。いよく紙がく
ばられた。他の人は一生けんめに書い
て居るが私は出来ないでた。ぼんやり
して居るばかりだつた。しかし外の人み
たいに一心に考へれば出来なひ事はな

私は食へに行く途中「今日は何かに御飯が早
なあと考へながらおせんの朝に坐つた。
だいたいころには誰も居なかつた。私は今よりおは
誰だらうと用ひながら又外へ出て見ると隣の
おぼんがたけらうちやんをよんで居たので私
はなんだか恥かしいやうな氣がした。間もなく
御飯を食へておさうひをして居た。

田中島好子さんのお父さんへ 林 久子

好子さんのおなごなつたといふことを
先生からききました。好子さんへ私達と
同級でした。その先生の話を聞かぬか
御満腹でおいしや様へ行く途中川へお
まひおはすしたうたといふことをききました。
お父様やお母様はどんなにおなごをせう。
お父さんに乗りたうと思ひます。おはやく行
けませんか。手紙でおくやみ申し上げます。
昭和八年もう終ります。此二年もよくふり
かへつて見て下さい。

② 朝の勉強 益田修

いだらうと思つて一生けんめい考へた。
そしてやつと一番はかいてしまつた。それ
からだんく言いて行く内は時間だん
だんせまつて行く。一番はもう出来なかつ
たのでどうせ出来なひからいよいよといつ
て出してしまひました。
夜がだんく明けはなれてくる。家の人
はまだみんなどうくねむつて居る。カ
ラス戸がだんく白くなつて来た。僕は
起き上つて下の部屋であかりをつけて
勉強をはじめた。朝はよく頭にはいる。
庭に出てみるとパパヤの木や草がぬれ
て居る。ゆふべ雨が降つたのであらう。
海岸からすずしい風が吹いて僕は氣持
がよかつた。それから水をバケツに入
れて顔を洗つた。水はつめたかつた。ゆふの

木に小鳥がとまつて居るさむさうだ。僕は小鳥たちはあた、かい春をまつて居るのだからと思つた。顔をふいてから又下で勉強をはじめた。やがてお母さんが来て私にお前は今日はえらいといはれてうれしかつた。もう二学期も終る。私達は三学期を待つてしつかり勉強してえらい人にならう。

⑧ 先生約束を忘れなで。ビッゲイ先生々々優勝旗ほどの組がつたんですか。五年生がつたんでせう。それで先生はおごつてくれるといひましたね。早くおごつて下さい、氣になつてはまりません。僕も又おごつて二げまはります。マンヂエウを買つたら袋を上げます。だから早くおごつて下さい。たのしみです。お正月におごつて下さい。みかん

を三箱でい、です。

⑨ 夢

磯崎秀子

私は毎晩夢を見ない日はありません。昨夜は朝當番のことばかり氣になつて母に「あした朝當番だから起して下さい」と云つて床に入りました。しづかにねむつて居ると「秀子さん」と呼ぶ声がきこえます。表では「トエちゃん」が「秀子さん」ば秀子さんのねぼう」といつて居るやうなので「い、い、起きてきました。それから學校へ行つて當番が終つてかへる時トエちゃんが「秀子さんはねぼうだね」といつたら「せきちゃん、お前は始めて」といひながら私を打つたので私は「お前に何をした」といつて泣きまねをしました。すると「しづちゃん」が「せきちゃん、お前打つもの

かやないよ」と私にかせいをしました。そして氣がつくとそれは夢でした。その時ほんとうに表で「秀子さん」と呼ぶ声がきこえました。

オナシ

へびノヒモ

小松壽太郎 作

アルウチニサンニンノコトモガアリマシタ。オトウサンハイチバンウエノコラダビニユカセマシタ。ガ、三ネンタツトリツパニナツテ、カヘツテキマシタ。ソノツギノコモリツパニナツテ、カヘリマシタ。トコロカ、オトウサンハ三バンメノコガバカナノデ、タビニハダシマセンデシタ。三バンメノコハドウカユカセテ、クダサイトタノ、デ、ヤツトタビニデルコトヲユルサレマシタ。サテ三バンメノコハタビニデカケマシタ。スコシユクトイスコロシガ、イヌヲコロサウトシテ、平ルノヲタスケテ、イツシヨニツレテ、ユキマシタ。マタスコシユクト、コンドハ、ネコガキノマタニハサマレテ、シニサウニナツテ、平マシタ。デゾノ、ネコヲタスケマシタ。ソレカラ、ガハノソバヘクルト、サカナガ、一ヒキオカヘアゴツテ、シニサウニナツテ、平マシタ。ソレカラ、イモオイデ、トイモマシタ。ヨクジツニナルト、サゴウハソノヒモヲ、ウチノチカヘシマツテ、ワウサマノコテンニユキマシタ。スルトウウサマハサゴウニ

マシタ。ノデ、マタヘビモタスケテ、ヤリマシタ。スルトへビ、タイヘンヨロコンデ、ブシギナヒモヲ、クレマシタ。ソレハ、ヒツバルト、ナンデモホシイモノガ、デルフシギナヒモデ、シタ。オウハ、コノヒモヲ、モラフト、ジブンノウチヘカヘルヨリ、キレイノウチヲ、タテ、ヒトリデ、スミタイト、オモツテ、ヨソノヒトノ、ハダケノマンナカニ、フシギナヒモ、デ、ウチヲ、タテ、スミマシタ。ヨクジツニナルト、ソノハダケノ、モチヌシハ、クワヲ、カツイデ、ハダケニ、クルト、リツパナ、オホキナ、ウチガ、タツテ、平ルノ、デ、ビツクリシテ、スグソノ、クニ、ワウサマニ、イヒニ、ユキマシタ。ワウサマハ、ゴシギニ、オモツテ、イツテ、ミマスト、オヒヤク、シ、ウチ、イツタ、ヤウニ、リツパナ、ギン、ト、ダイヤ、モ、ド、テ、ツク、ツタ、ウチガ、タツテ、平ルノ、デ、ビツクリシテ、ソバニ、イツテ、ミマシタ。ガ、モンガ、シマツテ、アキマセン、デ、シタ。ウチサマハ、トヲ、タイテ、ゴンニ、チハ、ト、ヨブ、ト、ナカ、カラ、ナデ、スカ、ト、イフ、コエ、ガ、キコエ、テ、ト、ガ、アイ、テ、サ、ゴ、ウ、ガ、テ、キマシタ。ワウサマハ、ウチノ、チカヘ、シ、マ、ツ、テ、ワ、ウ、サ、マ、ノ、コ、オ、マ、ヘ、ハ、ドウ、シ、テ、ゴン、ナリ、ツ、パ、ナ、ウ、チ、ヲ、タ、テ、タ、カ、ト、キ、マ、シ、タ。サ、ゴ、ウ、ハ、イ、マ、マ、デ、ノ、コ、ト、ラ、ス、ツ、カ、リ、ハ、ナ、シ、マ、シ、タ。ワ、ウ、サ、マ、ハ、ソ、レ、ヲ、キ、イ、テ、ヒ、ウ、カ、シ、テ、ソ、ノ、フ、シ、ギ、ナ、ヒ、モ、ヲ、ト、リ、タ、イ、ト、オ、モ、ヒ、マ、シ、タ。ソ、レ、ア、シ、タ。ハ、ワ、タ、シ、ノ、ダン、ジ、ヨ、ウ、ビ、ダ、カ、ラ、オ、マ、ヘ、モ、オ、イ、デ、ト、イ、モ、マ、シ、タ。ヨ、ク、ジ、ツ、ニ、ナル、ト、サ、ゴ、ウ、ハ、ソ、ノ、ヒ、モ、ヲ、ウ、チ、ノ、チ、カ、ヘ、シ、マ、ツ、テ、ワ、ウ、サ、マ、ノ、コ、テン、ニ、ユ、キ、マ、シ、タ。ス、ルト、ウ、ウ、サ、マ、ハ、サ、ゴ、ウ、ニ、

時として一生懸命容をよんである。
あゝ一年の計も終りを告げる時が
来た。我々も一年をここに過して
又新しい一年を迎へよう。

朝

沖山 鉄雄

目がさめた。僕ははね起きて顔を
洗ひ表へ出て見た。まだ真暗で
人通りは無かつた。どこかの家で
雨戸をあける音がした。
又遠くの家の雞が鳴き出して、
そりした朝の静かさを破つた。
向ふからと眞黒な人が三人来た。
大分土方であらう。だんく、明



高ニの作文

一年を回顧して

菊池つゆ子

今年こそは今年こそはと最後の一年間を楽
しく面白く過して一生涯命に勉強しようと
計算は立てるが中々豫算通りに行かぬは
ない。一か一此の最後の一年間を願はば面白かつた事
業一か一事業にたつた事業一か一事業を種々
思い出す。私達此の最後の一年間には
新樂一事業あり嬉し一事業あり。けれ共残念
な事には勉強を怠らぬとつた事である。後の
後悔をたす。今更なかの後悔する。だが
後悔してはもういふならぬ。今年も新しい年

るくなつてきた。海には白帆が
三つ四つ見え、沖へ行くのであらう。
人通りはますます多くなり、とう
く樂しい今日となった。

年の暮

大谷 幹男

いよいよ暮だ。あつちでもこつち
でもすきはきで火多だ。店々
では年末大賣出しで、福引景品
付とか何人とかいつてお客をよんでお
る。買ひに行く者、買つて帰る
者、入りみだれで道は賑かだ。
まったく昔はいいそがしい。

を迎へ何には熱心にやらうと思ふ。

年の暮

石田友二

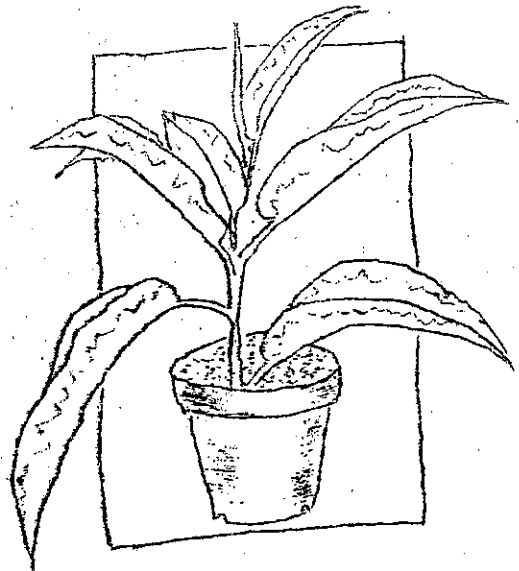
あ正月も間近くなつて来た。せうく風も作りなり
小はならぬ。僕はもう行列はこり、いた。今年
正月には田舎をあげ、第一天下にいた。今から想像
して居る。又羽子もつて大いに入らねえ。力を一
いた。きたと思つて頑固のは、板をもち作つて
ある。早く来水はい、今年正月か。

嘘

菊池 ヒサ子

この年の暮、新樂事業であつた。元來私はあま
り事業は好きでない。其の時、隣り人ともや、
ま、つた。父が一生懸命証明と話を居
る。私達はつた。はかり屋。先主が自分つた。

昭和八年十二月第四百一號



大村尋常小學校
編輯部